

臨海都市の次世代像

セイカイ【靨】

1. 青色と灰色が混じり合った様
2. 転じて、地の自然である海と 20 世紀のインフラストラクチャーとが融合した、臨海都市の新たな在り方のこと

拡大の 20 世紀。臨海部には、埋立によって新たな都市が造成され、白地のキャンパスに理想の都市が描かれた。

それから、半世紀が経った。人々は、機能豊かな理想の都市に吸い寄せられ、臨海部の人口は爆発的に増加した。

しかし、拡大の時代は終わりを迎えようとしている。

拡大という明確な目標を失った我々は、次にどこへ向かえばよいのだろうか。とりわけ、拡大の上に両足を置いた臨海部の都市にとって、この問いの重さは計り知れない。

そこで、臨海都市の次世代像として、「^{セイカイ}靨の浦^{ウラ}」を提案する。

「青」とは、臨海部の地の自然であり、「灰」とは、拡大の 20 世紀に築かれた高規格のインフラストラクチャーである。これら 2 つを、渾然一体とした次世代のインフラストラクチャーへと再編し、都市に新たなライフスタイルを生み出す。

